

第14回災害対策本部会議議事録

日時：平成23年3月22日（火）10：00～10：18

- 危機管理監：特に変更点無し。住民避難の状況は3,582名で、昨日から比べ350名減っている。なお、福島県からの避難者1,836名は、前日に比べると30名減少している。前の日が160名増えて、その前の日が260名増えているので、福島からの避難者についても減少傾向に転じている。一方で、福島からの避難者の避難所の数は、昨日より2箇所増えて25箇所となっている。続いて、救援物資の状況を説明する。
- 保健福祉部参事：昨日10時締め切りで44市町村あて最新の調査を行っている。そのうち8市町村から要望があった。内訳としては、高萩、北茨城、取手、つくば、筑西、稲敷、神栖、境の8市町村からあった。地元住民用に要望があったのは、高萩、北茨城、神栖の3市町村。その他については福島からの避難者用としての要望である。取手市を除く7市町村については、トラック協会に頼んで配送完了、あるいは取りに来ていただいている。残る取手市については、本日、トラック協会により配送を予定している。要望の傾向としては、地元住民用は食料関係が多く、福島県民用は生活物資が多い状況。今後は、必要となった段階で要望調査をあげていただくよう各市町村に通知している。なお、食料については香川県から本日配送される予定となっている。市町村からの要望の傾向としては、数、数量とも減少傾向にある。市町村からの要望については、十分に応えられている状況になっている。
- 東京電力茨城支店：電力の復旧については、個別のお客様の対応ということで、昨日の状況からの数字の把握ができていないので、次の機会にお知らせしたい。福島の場合は、今日2号機の中央制御室の電源復旧に全力をとということになっている。そこから計測機器を復旧させて、非常用の炉心注水系のシステム、バルブとか、ポンプとかを点検して、さらに故障があればその故障の部位を直すという作業があるので、全部で3、4日かかると思っている。3号機、2号機の白煙については、今原因がわかっていない状態。放射能の放出も依然として2号、3号、4号については使用済み燃料の露出というのが、蒸気と一緒に継続しているという状況。放出を抑制することがまだできていない状況である。
- JR東日本水戸支社：今、運転されているのは、上野－土浦間の列車のみ。土浦までの列車については、概ね1時間に2本程度が運転となっている。昨日、水戸の南口と北口を通じる自由通路が開通となっているが、幅のほうは若干狭くなっている。土浦以北の常磐線については、今、復旧作業を行っている。特に、勝田以北についてはまだ復旧の見通しがついていない状況。水郡線、水戸線についても、今のところ、復旧の見通しが立っていないので、よろしく願います。
- 危機管理監：バスの状況は特に変更点無し。水道の状況であるが、現在も16万6千世帯が断水している状況。多いところで、日立市で2万世帯、北茨城市で3,700世帯、ひたちなか市で34,000世帯、潮来市で7,500世帯、那珂市で1万世帯。神栖市はまだ全域断水で28,900世帯、茨城町で3,500世帯が断水という状況。

- 土木部長：現在、県管理の通行止めの箇所が 48 箇所ある。このうち、概ね 1 週間程度で復旧見通しというのが 9 箇所ある。残る 39 箇所については、震度 5 クラスの余震がおきるという想定で、橋が落ちたり、落石によって人的な被害がないような状況で通行止めを解除したいと考えており、ここ 2, 3 日中には工法を決定して、同様の見通しを立てていきたいと考えている。港湾に関し、昨日からの変更点としては、常陸那珂港区の北ふ頭地区が、本日より利用可能となる。昨日も紹介したが、コマツが三月末を目途にインドネシア向けの輸出の準備を開始して、船の手配中である。また、鹿島港の南公共ふ頭についても、マイナス 6 m 岸壁が今日から利用可能になる。数日以内に穀物船が入港予定と聞いている。
- 生活環境部次長：福島県からの避難の状況について、昨日に比べ減っている状況。県内の状況を見ると、県北の避難所が減って、県南県西の避難所が増えている状況。取手市については、バスで迎えに行ったわけだが、その方たちの中で親戚の家に行ったり、あるいは、入院したりということで、避難所での数が減っている。問い合わせの数も激減している状況。引き続き、避難所での避難者の方のニーズの把握に努めていきたい。
- 山口副知事：放射線被ばく汚染検査の状況について、昨日は、28 名が検査を受けられ、合計で 2,732 名が検査を受けている。日に日に検査を受ける人が減っている状況。福島県からの病院の転院については、現在のところ一般と精神あわせて 205 名が茨城県に転院してきている。本日、DMAT によってさらに 5 名転院することになっている。
- 農林水産部長：県内農林水産物の状況については、昨日、内閣総理大臣から茨城県、栃木県、群馬県、福島県に対しまして指示があった。本県についてはハウレンソウとカキナ（アブラナ）の出荷を自粛するよう要請するという話がきている。これを踏まえて、県内の全市町村と JA などに対して通知をだしている。ハウレンソウとカキナについて当分の間出荷を差し控えるよう要請するとともに、これまでに暫定基準値を下回っていることが確認されている品目が全体で 17 品目ある。これについて、国民、県民の皆様に情報を広くお知らせし、風評被害が広がらないよう尽力するよう関係の方々にも要請しているところである。特に規制値を下回っていることが確認された品目については、農産物で 17 品目、水産物で 2 品目あるので、今後はこうした情報を流通経路、小売店それから飲食店などに積極的に発信することによって、風評被害を抑制したいと考えている。
- 原子力安全対策課：北茨城市、高萩市とも大体 2.5 マイクロシーベルト/アワーあたりの線量になっている。以前より高めの線量が出ているが、これは福島第一原子力発電所で爆発があり、大気中に放射線物質が放出されている。その放出されている放射線物質が、今、風に乗って、ちょうどこの地域を漂っている。そのようなかたちで、放射線の雲と呼ばれるものが、ちょうどふわふわ浮いて漂うと、この辺の地域の線量が上がる傾向にある。
- 企業局長：内原が断水していたが、那珂川の水管橋が本日修復できたので、今、通水しており、間もなく送水できる。神栖は、2 箇所修理しなければならないところがあるが、神栖には 3 つの配水場（知手、土合、鰐川）があって、そのうち知手と土合については、一部漏水しながらも水を送れる状態になっており、実際にここに水を送っている。この部分については、少し前に送っている。この 2 箇所については送水している。鰐川配水場については、修復しないと

できないので、これは 24 ないし 25 予定としている。

- 自衛隊施設学校：県からのご依頼に基づいた輸送、缶詰の輸送を本日実施しているほか、給水、給食の支援を引き続き実施している。昨日は 10 市町に対して給水、給食を行っていたが、常陸大宮市と稲敷市は終了ということで、本日 8 箇所が減っている。なお、明日、静岡から来た 34 連隊が、現隊の方に復帰する予定である。
- 総務部長：福島からの避難者の関係の報告。取手市では、災害協定を結んでいる南相馬市の避難民を受け入れている。128 名のうち 68 名、特に子供、老人のいる家族について、取手競輪場の選手宿舎、これは比較的新しく今回被災もしていない施設であるが、こちらに 68 名を今日から受け入れることにしている。具体的な対応は市の職員が行うことになっている。
- 知事：みなさん方、ご苦労さまですけれども、特に状況が変わったということで、申し上げることはありませんけれども、相変わらず、非常に緊迫しているということについては、みなさんしっかり頭においていただきたいと思います。いろいろ復旧作業に入っている状況になってはきておりますけれども、発電所がどうなるかということについては、政府自身もだいぶ緊張しておりますし、我々もそのことを絶えず頭においていただきたいと思いますし、そういったことも含めて、今度人事異動、4 月 1 日付けのものは、当分、半月ほどずらして人事を行いたいと思っております。いずれにしましても、あと少しで、福島の第一原発の状況もある程度進展してくるでしょうから、それなどをしっかり見届けて、そして、ある程度の復旧復興に向けての態勢というものが動き出す頃までは、人事を凍結していく必要があるのではないかなと思っております。また、あわせて、定年で退職される方につきましても、とりあえず定年延長と、本庁の課長級以上の方を主として定年延長という形でやらしてもらいたいなど思っていることですので、皆さん方にも、今の状況というものを踏まえてご協力をお願い申し上げたいと思います。以上です。
- 危機管理監：以上で本部会議を終了する。また、必要に応じて開催したいと思います。